

小学校における薬物乱用防止教育の進め方  
—薬物の正しい理解と行動力を身に付けさせるための工夫—

谷川 尚己<sup>1)</sup> 江藤 和子<sup>2)</sup>

Preventing Drug Abuse in Elementary Schools  
— Methods to Teach Students the Correct Understanding and  
Proper Behavior Regarding Drugs —

Naomi TANIGAWA Kazuko ETO

Abstract

We devised our own methods and materials for teaching elementary school students about the correct understanding and proper behavior regarding the health topics of smoking, drinking and drug abuse. The results from classes that implemented our methods are as follows.

We implemented 7 items, and the students thought about what is a drug in groups, and also learned that cold medicines, cigarettes and alcohol are also drugs. The students showed surprising interest in the topics about which they would learn. Showing the students newspaper articles and pictures of recent local instances of drug abuse was effective. We described the bad effects of drugs on the body using an organ vest. We also implemented role plays to teach students how to say no to drugs, which was effective in teaching awareness of a situation they may or may not encounter. Students learned about drugs and not to meddle with them by forming pairs and designing their own anti-drug slogans. We also enlisted the help of the school pharmacist, which was effective in teaching about health, smoking, drinking and drug abuse. Furthermore, it is also effective to implement lessons when students' parents are visiting the school.

Key words : drug abuse prevention, 6th graders, teaching methods and materials,  
understanding and behavior

キーワード : 薬物乱用防止, 小学6年生, 教材教具の工夫, 理解と行動力

---

1) スポーツ学部 2) 横浜創英大学

### 1. はじめに

未成年者の喫煙や飲酒は減少傾向にある。しかしながら、それぞれの経験者の大麻等の薬物経験率が高いことから、その防止教育は重要である。

小学校の学習指導要領には、保健領域として5つの内容が提示され、「オ 病気の予防」において、下記のようにねらいが記されている。

病気の予防については、病気の発生要因や予防の方法、喫煙、飲酒、薬物乱用が健康に与える影響を理解できるようにすることがねらいである。(中略) 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、健康を損なう原因となること、地域において保健にかかわる様々な活動が行われていることなどを中心に構成している。

さらに、小学校の6年生においては、「3 病気の予防」について、その目標とねらいが提示されている(表1)。

そして、「エ 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康」の項において、具体的その内容が記されている。

教科書では、以下の内容について学習していくこととなっている。

- 1 病気の起こりを知ろう      2 病原体がもとになっておこる病気を予防しよう
- 3 体のていこう力をつけよう      4 生活のしかたによっておこる病気—1  むし菌や菌ぐきの病気を予防しよう
- 5 生活のしかたによっておこる病気—2  生活習慣病を予防しよう
- 6 たばこの害から身を守ろう      7 酒の害から身を守ろう
- 8 薬物乱用の害から身を守ろう

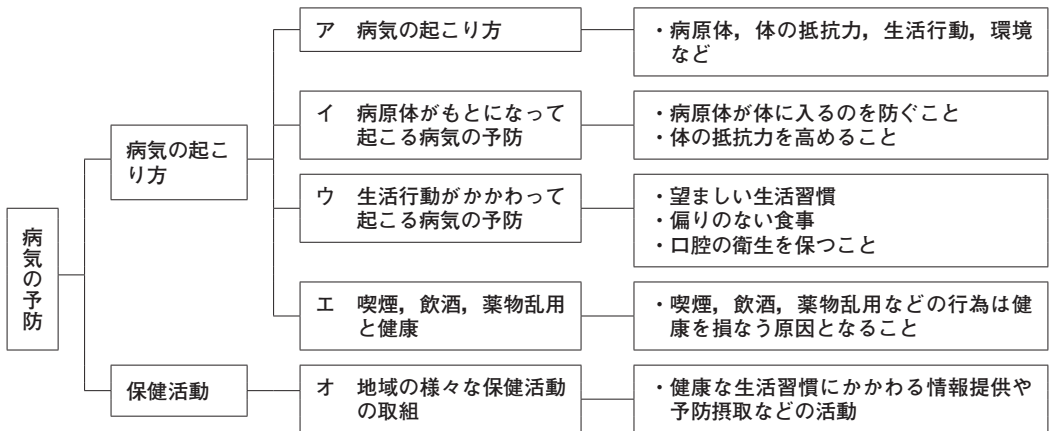
今回、「エ 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康」の項において、児童がより自発的に学習を進め、理解を深め、行動化に移すことができるような教材教具を考えることとした。そして、考案した教材教具を用いた授業の進め方やその成果等について報告することとする。

また、「喫煙と健康」「飲酒と健康」に引き続き、「薬の働きや正しい飲み方」についての保健指導を行い、「薬物乱用の害と健康」につなげる系統的な学習を実践した。その際、学校薬剤師と連携したので、その内容についても併せて報告する。

### 2. 教材教具を使用した授業実践

小学校6年生が、薬物について正しい理解をするために、喫煙、飲酒、薬物乱用について系統的に学ぶため、下記の実践を行った。

表1 病気の予防における学習内容



- 1. 保健「喫煙と健康」 2. 保健「飲酒と健康」 3. 特別活動保健指導「薬の飲み方と正しい理解」 4. 保健「薬物乱用と健康」

上記の4つの内容において、新たに考案した教材教具およびそれらを用いた授業実践について報告する。

### 1) 保健「喫煙と健康」



図1 たばこのけむりから排出される有害物質の模型

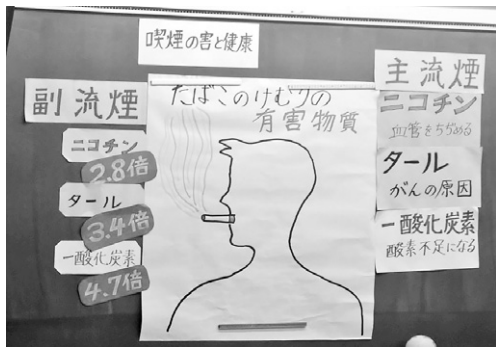


図2 たばこのけむりの有害物質

図1・2は、たばこのけむりの有害物質について学習する教材教具である。たばこのけむりからニコチン、タールや一酸化炭素が排出され、その害について主流煙と副流煙に分けて説明するものである。有害物質はたばこを吸った本人より煙を吸った人の方がその害が大きいことがよく理解できたと考える。

### 2) 保健「飲酒と健康」

お酒を飲むと体にはどんな影響が現れますか



図3 飲酒による体への影響



図4 喫煙・飲酒防止に向けた標語カルタ

次に、飲酒について学習した。地元の飲酒事故件数等をもとに飲酒の恐ろしさについて考え、さらには、お酒を飲んだ時の体への影響(図3)について学習し、禁煙と併せて標語を考え、かるたに表した。

### 3) 保健指導「薬の正しい飲み方」

「喫煙」「飲酒」防止の学習後、教科書には、資料として記載されている医薬品の正しい飲み方について学習した。図5のように、空カプセルが指にくっつく時とくっつかない時の違いを調べた。図6は、コーラ、ぬるま湯、オレンジジュース、コーヒースポーツドリンクの中で早く溶けるのはどれかを調べた実験である。これらの実験から、薬はたっぷりの量の水またはぬるま湯で飲むことが大切であることが理解できた。さらに「クスクス先

生」の童話を読み聞かせ、色が同じ飲み薬でもその効果は異なることを学習した。



図5 実験：薬が指にくっつくの時は



図6 実験：カプセルが溶ける飲み物は

これらの学習で薬への理解を深めたうえで、薬物乱用防止に向けた学習を実践した。

#### 4) 保健「薬物乱用の害と健康」

6年生 体育科 保健領域学習指導案  
「薬物乱用の害と健康」

本時のめあて

①いろいろな薬物について学び、乱用は健康に深刻な影響を及ぼすことが理解できる。

②薬物の勧誘に対する断り方を知り、日常生活に活かすことができる。

課題：学校で学んだことを伝え、家族と話し合う。

### 3. 薬物の正しい理解と行動力を身に付けさせるための授業内容

喫煙や飲酒は、薬物の入り口（Gateway drug）といわれている。導入では「薬物って

どれ」（図7）を使って、○×クイズを行った。黒板に掲示した7項目（角砂糖、シンナー、カゼ薬、大麻、覚せい剤、たばこ、お酒、危険ドラッグ）についてグループで考え、○または×印を張り付ける活動を行った。角砂糖を除くすべて物（カゼ薬、たばこ、お酒）が薬物であることがわかり、その後の学習に意外な気持ちを持ちながら取り組むことができた。

また、身近な事件の新聞記事や写真の提示も活用することも有意義である。図8は、昨年6月池袋で起きた危険ドラッグを吸引し、8人の死傷者を出した交通事故を起こした時の写真である。シンナー、大麻、覚せい剤にとどまらず、危険ドラッグについても現実を見据え、学習することが重要だと考え、取り入れたものである。

学校薬剤師は、薬についての専門家である。授業の中でその専門性を活用することは

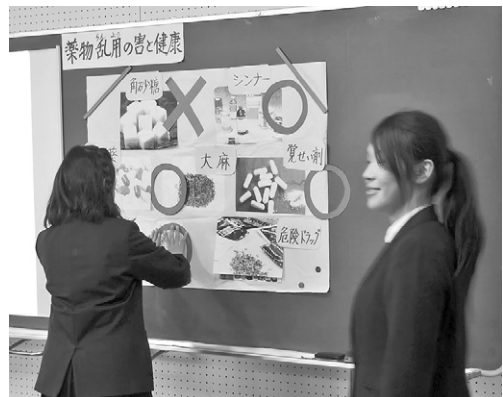


図7 「薬物ってどれ」



図8 新聞の切り抜きを活用した授業

段階	児童の学習活動と学習内容	教師の指導・評価	資料・手法
導入	<p>1. 薬物についてのアンケートに答える。</p> <p>2. 薬物の種類について知る。 角砂糖，シンナー，覚せい剤，かぜ薬，大麻，酒・たばこ，危険ドラッグの写真を見て，何が薬物なのかを話し合う。 薬物だと思うものには○，薬物でないと思うものには×の掲示物を貼る。</p>	<p>周りと相談しないよう指導する。</p> <p>ゆさぶりをかけながら子どもたちに考えさせる。 お酒やたばこは薬物乱用の入り口であることを伝える。 かぜ薬も使い方を間違えると身体に害を及ぼすことを伝える。</p>	<p>アンケート（13項目）</p> <p>グループで話しあう。</p>
展開	<p>3. 薬物乱用について考え，その危険性を理解する。 シンナーについて学習する。 体への影響について学習する。 大麻の影響について学習する。 危険ドラッグについて学習する。</p> <p>4. 断り方を知る。 ロール・プレイングを見る。 断り方4カ条について知る。</p> <p>5. 「身近な人が薬物を使っているとどうか？」「社会から薬物を乱用する人がいなくなるための行動」について話し合う。 薬物乱用防止の標語を考える。 ポスターを参考に2人1組で標語を考える。 葉っぱの形をした画用紙に書き黒板の薬物乱用防止の大型ポスターに貼る。</p> <p>6. まとめ たばこ・お酒・薬物に手を出さないために，自分を大切にすることを知る。</p>	<p>内臓ベストを用い，臓器への影響について説明する。 依存性があり，その危険性について学習させる。 簡単に手に入るものであり，身近でとても危険なものであることを伝える。</p> <p>断り方4カ条をすべて含んだロール・プレイングを行い，子どもたちがより，理解しやすいようにする。 2人1組になって話し合う。</p> <p>薬物乱用を絶対にしないという強い気持を持って，標語を考えるよう指導する。</p> <p>自分を好きになり，大切にするために日々どのように過ごして行くのかについて実体験をふまえて話す。</p>	<p>パワーポイントを使用する。 学校薬剤師が専門的な説明をする。 内臓ベストを使用する。</p> <p>ロール・プレイングを見て，考える。時間があれば，体験する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスター</li> <li>・薬物乱用防止の大型ポスター</li> <li>・薬物乱用防止の木の画用紙</li> </ul>
終末			

効果的である。図9は、薬物による内臓への害について説明しているものである。内臓エプロンを用いて説明をしていたが、腎臓や膵臓はどこにあるのかがわからないため、内臓ベストを考案した。これにより、後ろを向

き、その害について説明することができた。また、ロールプレイングを見、薬物をすすめられた時の断り方について学び、実際に断り方を体験すことを行った。いつ出会うとも限らない場面に対応できるためにも効果的な



図9 薬物乱用防止に向け、考案した教材教具を使った授業内容

左上 薬物の体への影響（学校薬剤師との連携による） 右上 内臓ベスト（表）  
 左中上 ロールプレイング（薬物をすすめられた時の断り方） 右中上 内臓ベスト（裏）  
 左中下 薬物乱用防止の標語を考える 右中下 薬物乱用防止の標語（モミジ、イチョウシリーズ）  
 左下 薬物乱用防止の標語（栗シリーズ） 右下 薬物乱用防止の標語を見る児童達

ことである。

授業のまとめとして、薬物乱用を自分ではないことはもちろん、薬物乱用のない社会を作るために何ができるのかについての標語作り（二人1組で考える）を行った。（図9）「大丈夫そんな思いが命取り」「一度だけ軽い気持ちはダメですよ」「薬物であなたの未来が消えていく」「薬物は持つな使うな近づくな」といったように学習した内容を理解し、しっかり考えることができていた。二人1組で考えたことがお互いに相談でき、より効果を高めることができたと思われる。

また、考えた標語を書き込む掲示物は、モミジやイチョウ、クリなどの形を作った画用紙を用意し、台紙となる木等に貼り付けさせることとした。

授業を行うにあたっては、事前に学校薬剤師と打ち合わせをし、授業に参加していただくなど連携を取りながら実践した。薬物乱用の拡大が危惧される中、専門的な知識を持っている学校薬剤師との連携は授業内容の充実に結びつく重要な方策だと考える。また、学校の協力を得、保護者参観時に行ったことは、保護者にも理解されたこととともに家庭での親子の話題ともなり、有意義だったと考える。

#### 4. 授業後の児童の反応

##### 1) くすり教育について

A：おくすりはいつもお茶で飲んでいただけで、ぬるま湯の方がよくとけることがわかったので、ぬるま湯で飲もうと思った。

B：くすりの断面や何で飲めばすぐに溶けるのかがわかった。僕は今まで何で飲んでも同じくらいのスピードで溶けると思っていたけれど、すごく違いがあったので、これからは水で飲もうと思った。くすりは同じ色でも効果が違うこともわかった。

C：医薬品はいろいろあって、それぞれ効果が違うことがわかった。同じ色で同じような形でも、効果が違う場合があるので、自分勝

手に飲んだりせず、大人に確認してから飲むようにしたい。また、薬を飲むときは、薬に書いてある食前・食後などの飲むタイミングや回数を確認してから飲むようにしたい。

##### 2) 薬物乱用防止について

A：薬物は一度吸ってしまうと止められなくなり、どんどん体を傷つけていく怖いものだった。友達から危険ドラッグなどの薬物を誘われることがあってもきちんと断れるように考えておきたい。また、きれいなパックに薬物が入っていることもあるけれど、薬物に気軽に手を出さないようにしたい。

B：今までなら「かくせいざい」とTVで言っても「フーン」「そーなんだ」という反応しかなかったけど、今回の学習で、それだけ恐ろしいことがわかりました。

C：薬と薬物は似たようなイメージがあったけれど、薬物はすごく恐ろしいものだとわかった。理由は、心も体も傷つけるからです。健康な体を薬物で傷つけるなんて、絶対にはいけないことだと思った。

D：ほくは、薬物を一度吸うとなぜやめられなくなってしまうのか不思議でした。でも、薬物は気分がよくなるので繰り返してしまうことがわかりました。僕は友達にさそわれても断ろうと思いました。

##### 3) くすり教育・薬物乱用防止教育を終えて お家の人と話し合ったこと

A：薬には良い作用と副作用があり、副作用のことも知ったうえで使うようにしたい。そして、薬物は友達の誘いなどで一度使ってしまうと止められなくなり、取り返しのつかないことになる場合がある。だから、絶対に手を出さない固い気持ちでいなければならないと思った。

B：お母さんは、今までジュースやお茶などで飲んでいて、ダメだと思いました。今回の学習を聞いていなかったら、ふつうにジュースやお茶で飲んでいたと思います。これから

は、ぬるま湯で飲もうと思いました。

C：お母さんに「スピードってあるの」と聞くと「あるで。でも絶対手を出したらあかんで」そして、「一回手を出すとぬけられないよ」と言われ、学校で習ったことやと思いました。やっぱり、薬物に関しては「手を出す」という言葉が重要でした。

D：ぼくの家では間違えていたことが多かったので、そこを直すべきだと話しました。できるだけ体温に近いぬるま湯で飲むのが良いと知り、次からは、そうしようと思いました。ぼくは、この学習をする前は、薬は服用するだけで病気が治る便利なものだと思っていたけれど、この学習の後は、使い方によっては危険で、使いすぎも良くないと考えました。

## 5. まとめ

小学校保健学習の「喫煙、飲酒、薬物乱用と健康」の項において、児童が薬物の正しい理解と行動力を身に付けさせるために独自の教材教具を考案し、それらを用いた授業によって以下の成果が得られた。

- 1) 導入として、7項目の写真(角砂糖、シンナー、カゼ薬、大麻、覚せい剤、たばことお酒、危険ドラッグ)が、薬物かどうかをグループで考え、○か×の印を張り付ける活動により、カゼ薬、タバコやお酒も薬物であることを知り、これから学習する内容に意外な気持ちを持って取り組むことができた。
- 2) 身近な事件の新聞記事や写真の提示も活用することも有意義であった。
- 3) 内臓ベストを考案した。これにより、体の背中側にある臓器についても、その害について説明することができた。また、ロールプレイングで、薬物をすすめられた時の断り方を学び、断り方を体験したことは、いつ出会うとも限らない場面に対応できるためにも効果的なことであった。
- 4) 二人1組で考える標語作りは、「大丈夫そ

んな思いが命取り」「一度だけ軽い気持ちはダメですよ」「薬物であなたの未来が消えていく」「薬物は持つな使うな近づくな」といったように学習した内容が理解でき、薬物に手をそめないといった思いができたと考える。また、二人1組で考えることにより、お互いに相談でき、より効果を高めたように思われる。

- 5) その他。「喫煙、飲酒、薬物乱用と健康」等の保健学習においては、学校薬剤師に協力のもとに実践することがより効果的であった。また、保護者参観時に実施することも有効である。宿題として家庭で授業内容を話し、意見を交換し合うことや学校保健委員会での内容等を提案することも有益な方法である。薬物乱用防止教育の前時に、薬教育を行ったことは、異物は口に入れないことを理解していたため、より効果的であったと考える。

## 引用・参考文献

- 1) 文部科学省(2008)小学校学習指導要領解説 体育編. 東洋出版社:東京.
- 2) 文部科学省(2008)中学校学習指導要領解説 保健体育編. 東山書房:京都.
- 3) 文部科学省(2009)高等学校学習指導要領解説 保健体育・体育編. 東山書房:京都.
- 4) 文部科学省(2013)薬物等に対する意識調査報告書3.
- 5) 谷川尚己, 守谷まさ子, 江藤和子(2015)健康に生きるための保健体育. サンライズ出版:滋賀.
- 6) 谷川尚己ほか:(2014)大学教員による小学生を対象とした保健指導. びわこ成蹊スポーツ大学紀要, 11:63-70
- 7) 谷川尚己ほか:(2015)健康・安全に理解が深まる保健学習の進め方に関する研究. びわこ成蹊スポーツ大学紀要, 12:49-59
- 8) 谷川尚己(2015)スポーツ大学の学生に対する学校薬剤師による医薬品教育の効果. 教育医学, 60:169-174
- 9) 山田純一, 高柳理早ほか(2012)中学生を対



象にした医薬品適正指導に関する意識調査と  
学校薬剤師による教育の効果. 薬学雑誌,  
132:215-224

10) 東京都南多摩保健所(2003) 学年別薬物乱用  
防止教育プログラム. 東京都生活文化局.